ver 5.0/2012-05-01

東南アジア史の超構造化

2000C.E.	E1	E2	E3	E4
1945C.E.	D1	D2	D3	D4
18/19th C.	C1	C2	C3	C4
13/15th C.	B1	B2	B3	B4
11th C.				
5th C.				
2000B.P.	A1	A2	A3	A4
	① 大陸部 ②		③ 島嶼部 ④	

B.P.=Before Present, C.E.=Common Era

歴史を構造化するとは？

- 時間・空間・社会による分節（メリハリ）を設ける。
- 東南アジア史全体をブロックに分け、ブロックを以下の時空間セット I~VII でくくる。
- セットとは別に 3 つのサブセットを設ける。
- 各セットの特徴と画期となるできごとを把握する。
- なお、言うまでもないことだが、各ブロックやセットが同じ色で均等に染まったわけではなく、おのずとグラデーションがあり、さらに時間と共に変化したことを忘れないで欲しい。

I　基層文化が卓越した地域・時代（A1~A4+B4+C4）
　初期国家の出現（A2+A3 の末期、B2+B3 に先行する時代）
II　「中国化」した地域・時代（B1+C1）
III　「インド化」した時代・地域（B2 大陸部、B3 島嶼部）
IV　上座仏教化した地域・時代（C2）
V　イスラーム化した地域・時代（C3）
　「交易の時代」（C1~C4 を貫通する時代）
VI　列強により植民地化された地域・時代（D1~D4）
　日本軍政期（D1~D4 の末期）
VII　国民国家形成の地域・時代（E1~E4）

I 基層文化が卓越した地域・時代（A1~A4+B4+C4）

地域：　東南アジア全域。

時代：　紀元後 5 世紀前後まで。東西海上貿易の発展に応じて、土着の初期王国が出現。ただし、ベトナム北部は紀元前 2 世紀に中国に支配され、フィリピンは後代まで基層文化の時代が継続した。

特徴：　精霊信仰（アニミズム）。首長制社会。水田稲作、焼畑。銅鼓。高床式家屋。アウトリガー・カヌー。

事件：　モンスーンの発見による東西海上交易ルートが確立するに応じて、中継拠点としての港市などの初期国家が形成された。さらに、東南アジアの金や香料・象牙・玳瑁などの熱帯産物の需要も増加。自称「大秦王王安敦」(ローマ皇帝マルクス･アウレリウス)の使者の到来。

　扶南：1 世紀末、クメール人の王国。メコン川デルタ地域。シャム湾に位置する外港オケオ。

　林邑：2 世紀末、チャム人の王国。ベトナム中部。

　その他、ビルマ南部にモン人の国家。マレー半島両岸にも港市。

補足：　ベトナム北部は中国の支配に入り、「中国化」した。フィリピンではバランガイとよばれる首長社会がフィリピン南部のイスラーム化あるいはスペイン人到来まで継続した。

II 中国化した地域・時代（B1+C1）

地域：　ベトナム北部。

時代：　B.C.111 年、漢の武帝は南越国を征討し、交趾、九真、日南を含む 9 郡を設置した。中国は、ここを経由して東南アジア（中国は「南海」と呼んでいた）の物産を得た。

特徴：　「中国化」: 10 世紀まで中国により直接的に支配。11 世紀の独立後はベトナム人自身が中国型の国家モデルを追求。中国系大乗仏教、儒教、道教。律令制度。漢字の導入。ベトナムは中国をモデルとした「小中華」帝国の形成を目指した。

事件：　1009 年、李太祖がリ（李）朝を創設し、中国から独立。1174 年に中国から安南国王の称号を受ける。

　13 世紀、チャン（陳）王朝は、元の攻撃を 3 度にわたって撃退し、民族意識が昂揚するが、14 世紀になって国力衰退。

1407 年から 21 年間、明朝の支配下に入るが、レ（黎）朝が独立を回復（1428 年）。

補記： ベトナム中部・南部のチャム人（チャム人の王国連合の総称）は、「中国化」せずに「インド化」（さらにのちには「イスラーム化」）した。チャンパ（チャム人の王国連合の総称）は、15 世紀にレ（黎）朝によって滅ぼされた。

III インド化した時代・地域（B2 大陸部、B3 島嶼部）

地域： ベトナム北部とフィリピンを除く東南アジアのほぼ全域（とくにインドシナ半島南部、大陸部の沿岸部、マレー半島を経てスマトラ島、ジャワ島にいたる地域）。

時代： 5 世紀以降。

特徴： 「インド化」：インドによる直接支配ではなく、現地権力によるインド文化の受容。インド系文字（南インド系ブラーフミー文字）、ヒンドゥー教、大乗仏教、部派仏教（「小乗」仏教）、サンスクリット（の語彙）、ヒンドゥー叙事詩（ラーマーヤナ、マハーバーラタ）、王権思想、世界観、歴史観、建築、美術、芸能など。この地域はその後「上座仏教化」したが、インド的影響は残存している。

B2 大陸部

事件： クメール人の王国（真臘）
ジャヤヴァルマン 2 世（8 世紀）：アンコール朝創建。ヤショーダラヴァルマン 4 世
スーリヤヴァルマン 1 世（11 世紀前半）、アンコールのバライ建造
スーリヤヴァルマン 2 世（在位 1181～1218 年）
ジャヤヴァルマン 7 世
モン人の王国：ドヴァーラパティ王国（堕羅鉢底）。チャオプラヤー川下流。
ピュー（驃）人の王国：エーヤーワディー川流域。
ビルマ人の王国：パガン朝（11 世紀）。ピューの王国を吸収。

補足： ベトナム中部・南部ではチャム人が「インド化」した。

資料： 『真臘風土記』（13 世紀末）

B3 島嶼部

事件： シュリーヴィジャヤ（7 世紀半ば～11 世紀）：スマトラ島東岸（マラッカ海峡）。
シャイレーンドラ：ジャワ島中部。大乗仏教を信奉し、ボロブドゥール寺院を建造
マタラム王朝：ジャワ島中部・東部（10 世紀に移動）。ヒンドゥー教を信奉し、プランバナン寺院を建造。
クディリ王国：ジャワ島東部。1006 年頃、内乱で一時分裂するが、再統一。
シンガサリ王国：ジャワ島東部。13 世紀。
マジャパヒト王国：ジャワ島東部。シンガサリ王国の後継者。元軍を撃退して成立。東南アジア島嶼部の大部分を影響力をもった。宰相ガジャマダのもとラージャサナガラ王の時期（14 世紀中葉）が最盛期。

資料： 義浄『南海寄帰内法伝』（7 世紀末～8 世紀初）

IV 上座仏教化した地域・時代（C2）

地域： 東南アジア大陸部（ベトナムを除く）ほぼ全域

時代： 13 世紀以降（現代まで）。ただし、ビルマでは 11～13 世紀にパガン朝が上座仏教を信奉していた。

特徴： パーリ語経典（文字は各言語によって異なる）。

事件： ビルマ以外の大陸部では「タイ系」諸民族があいついで勃興
スコータイ朝（13 世紀後半～1438 年）：第 3 代ラーマカムヘン王（在位 1275～1299 年）
チェンマイ王国（13 世紀末）
アユタヤ朝（1351～1767 年）：チャオプラヤー川下流域。アンコール朝を侵攻。破れた

王家は最終的にプノンペンに遷都（1434 年）。上座仏教化する。
ラーンサーン王国（1353 年）：ラオ人（「タイ系」の王国）。メコン川流域。
アバ朝（1364～1555 年）：シャン人（「タイ系」の王国）。上ビルマ。
ペグー朝（1287～1539 年）：モン人の王国。下ビルマ。

資料： ラーマカムヘン王碑文（1292 年）。周達観『真臘風土記』（13 世紀）

V イスラーム化した地域・時代（C3）

地域： 東南アジア島嶼部（フィリピンを除く）ほぼ全域
時代： 15 世紀以降
特徴： アラビア語、アラビア文字。イスラーム。シャリーヤ（イスラーム法）。
事件： 14 世紀末、マラッカ王国が勃興。明の保護下にマラッカ海峡の海上貿易センター。イスラームを受容し、東南アジアのイスラームのセンター。アユタヤと共に「交易の時代」の中心勢力。1511 年、ポルトガルがマラッカを占領すると、マラッカの商人は各地に分散。
ジャワ島のイスラーム化。16 世紀、ドゥマック王国。17 世紀、マタラム王国。
補足： フィリピンも南部からイスラーム化（スールー王国）したが、スペインのキリスト教勢力によって南部に押し込められた。ベトナム中部・南部のチャム人もイスラーム化した。

C1~C4「交易の時代」

地域： 東南アジア全域
時代： 15 世紀～17 世紀中頃
特徴： 東南アジア全域と隣接するアジア諸海域に広がる交易活動が活発化した。日本の朱印船貿易、琉球王国の活動、ヨーロッパ人の到来と活動も「交易の時代」のできごとである。

VI 列強により植民地化された地域・時代（D1~D4）

地域： タイを除く東南アジア全域
時代： 18～20 世紀。
特徴： キリスト教（スペイン、ポルトガルはカトリック、オランダ、イギリス、フランスはプロテスタント）ただし、プロテスタント諸国は布教にはあまり熱心ではなかった。
事件： ポルトガルのマラッカ占領（1511 年）、スペインのマゼランのフィリピン上陸（1521 年）が端緒。
スペイン：フィリピン（のちにアメリカが支配）
ポルトガル：東ティモール
オランダ：インドネシア
イギリス：ビルマ、マレーシア、シンガポール、ブルネイ
フランス：ラオス、ベトナム、カンボジア
補足： タイは植民地化されず。日本軍政（1941～1945 年）はセット VI の最終段階とみることができる。

VII 国民国家形成の地域・時代（E1~E4）

地域： 東南アジア全域
時代： 第二次世界大戦終結（1945 年）後（現代まで）
特徴： 1967 年、ASEAN（東南アジア諸国連合）の創設。当初は 5 か国。その後、地域協力機構として発達。
補足： タイは第二次世界大戦以前から独立していた。